

## 今後の検討事項

## 1 次年度のモデル調査実施に向けた検討事項

### ①環境教育（環境講座）について

地域レベルの清掃活動の体制・枠組作りや、清掃員の募集に当たっても、参加者の意識の啓発や高揚が不可欠である。

このため、第2回クリーンアップ調査において、清掃活動に参加する学生、地域住民、漁業者に対して、環境講座や地域交流会を開催し、最後にアンケート調査を実施して、その効果を把握した。今後も機会があれば、具体的な実施を検討する。

### ②他の組織の活動との連携について

当該地域では、既に「クリーン・ビーチいしかわ」、「学生クリーン・ビーチいしかわ」による清掃活動やサーファーによる自主的な清掃活動が活発に行われている。これらとの連携を深めて、体制作りや作業員の募集などを検討する。

### ③重機の使用について

重機の使用は、大量の漂流・漂着ゴミを回収する上では有効であると考えられ、今後の海岸へのゴミの漂着状況等を踏まえ、その適切な使用方法や頻度等について検討を行っていくこととする。

第1回クリーンアップ調査では、ホイールローダ、バックホーなどを使用したけど、あまり効果的ではなかった。今後は、ビーチクリーナの使用を検討する。

### ④冬季調査について

今後は、冬季にクリーンアップ調査を行うことになるが、強風等により調査が困難になることや、作業員の安全の確保に支障が出るおそれがある。その場合は、最低限の対応として共通調査（調査枠内の調査）のみを実施する等、冬季における適切な調査方法制について検討する。

### ⑤流木等の取扱について

これまでのクリーンアップ調査で多く確認された流木等の漂着物は、回収・処理に多くの人員や費用が必要となる。また、流木等の大きさや、種類（自然木、製材、人工物等）によって、対応方法が異なる。このような漂着物については、漁業や船舶の運航への支障、海岸環境に与える影響等を考慮しながら、無理なく海岸清掃を続けていく上での対応について検討する。

### ⑥貴重種昆虫の生息地について

貴重な昆虫の生息地での調査は、昆虫への影響を最小限にとどめるため、人力による作業のみで対応した。調査結果を見ると、人力のみの対応でも十分に可能であることが明らかとなった。なお、今後は成虫の出現時期と重なることもあり、調査の実施に当たっては、文化財の現状変更の手続き（石川県文化財保護条例第35条）を含め、関係者からの指導を受けながら調査を行うこととする。

現在、北側にある小川よりも奥側の地域についての清掃方法を検討しているが、小川の横断方法や運搬方法が検討課題となっている。貴重種昆虫の保護と調和した調査方法（コドラート枠の設置方法、ごみの回収方法、レジンペレットの回収方法等）を意識しながら、その方法を検討していく予定である。

#### ⑦滝海岸について

岩場の海岸である滝海岸（St.7）の第1回クリーンアップ調査結果を見ると、人力で対応できる大きさの漂流物であれば、重機を使わなくても効率的に作業できたと考えられる。当初は、ゴミの運搬用にサイクリングロードへの軽車両の搬入を希望していたが、人力（リヤカーの利用）のみの対応でも十分に可能であることが明らかとなった。

今後は、St.7では、大きな流木やロープ類、冷蔵庫といった大型漂流物の対応を検討する。St.6では、これらに加えて、海岸で収集したゴミ袋をサイクリングロードまで搬出する方法（St.7に比べて、搬出距離があり、植物が茂っている）を検討する。

## 2 モデル調査終了後の継続的な海岸清掃体制等の検討事項

### ①今後の海岸清掃の体制について

本地域でのモデル調査は次年度で終了となるが、今後も継続的に海岸清掃を行っていくためには、海岸管理者である地方公共団体が地域住民等の関係者と連携して海岸清掃を進めていくことが重要である。

このため、本地域での体制・枠組作りや、効率的・効果的な漂流・漂着ゴミの回収・処理方法について検討する。

### ②海岸清掃のための人員の募集方法について

海岸清掃を継続的に行っていくには、地域住民等からの人員の確保が不可欠であり、人員を確保する方法について、検討する。

このため、より多くの大学に募集の声を掛けるとともに、漁業者、サーファー等への働きかけを行い、より広い範囲の参加を検討する。